【７月授業納めあいさつ】

親友と NIMBY

校　長　　渡　邉　政　徳

30 年ほど前に ALT として大館市の高校に勤務していたカナダ人の親友がこの３月に病気で亡くなりました。同年代で、若い頃からいろいろな話をしました。人生や恋愛、政治や国際関係、くだらない話も。互いにからかったり、励ましたり、笑ったり…とてもいい関係でした。彼は秋田での任期が終わると、いったん帰国しましたが、後に東京の私立高校の ALT となり、我々は時々メールのやり取りや行き来を続けていました。彼がこの世を去り、大きな喪失感を覚えます。

昨年の秋、彼からのメールの中に、秋田県沖に洋上風力発電施設の建設が計画されている記事を読んだということが書かれていました。こちらからは脱炭素化への期待とともに、景観の悪化や渡り鳥のバードストライク、低周波の健康への影響などの懸念もあり、有望な計画にもしばしば欠点があることなどを書いて返信しました。それに対して、彼は NIMBY という表現を知っているかと問い返してきました。それは "Not In My Backyard" の頭文字を取ったもので、「自分の裏庭にはやめてくれ」という意味だと言うのです。つまり、様々な施設などの必要性は認めるが、自分の家の近くには作らないでくれという主張です。彼は世界中のどこでも NIMBY の問題に直面していると書いていました。

再生可能エネルギーの施設はこれからの社会でますます重要なものとなり、人々の生活環境への影響も比較的少ないと思いますので、NIMBY の対象となりにくいかもしれません。しかし、原子力発電所や廃棄物処理施設、火葬場、幼稚園、ダム、精神科病院などは建設されるとその地域の住民の生活の様々な面に影響を与えることが懸念され、「裏庭」にはやめてほしいと言われる場合があります。当該施設を設置しようとする側はその必要性を訴えますが、地域に押し付けているとみられることもあります。住民側の主張は自らの生活に直結していますが、しばしば「地域エゴ」と呼ばれることもあります。親友が遺した NIMBY という課題は、私の頭の中で絡み合ったままです。皆さんならどのようにこれらの問題の解決を図るでしょうか。

NIMBY と同様の問題は、形を変えて様々な面で我々の社会や生活に表れるように思います。「財政が厳しいことは理解するが、この件に関しては絶対反対だ」などのように、総論賛成・各論反対という場合もそうでしょう。そして議論がなかなか前に進まないことがあります。私生活においても、健康には十分気を遣っているけれど、このお菓子は食べずにいられないということがあるかもしれません。そして食べたあとで後悔することもあるでしょう。これらを考えると、NIMBY 問題の根底には公共の利益と個人の利益の対立、さらに言えば、理性と欲求の対立があるように感じられます。もちろんこれらの対置するものの両方が十分に尊重される必要があります。

さて、これから夏休みを迎えますが、NIMBY 問題は時間の使い方にも重ねることができるかもしれません。宿題を前にしてやらなければならないことはわかっているけれども、今は勘弁しもらいたいという主張もありそうです。しかし、逃げ回ってばかりはいられません。かの有名な予備校講師に言わせれば、「いつやるか？今でしょ！」ですね。時間を有効に活用し、充実した夏休みにするよう望みます。